

旭川市旭山動物園で飼育されていたマルミミゾウのメス「ナナ」(推定28、29歳) = 写真、旭山動物園提供 = が21日死んだ。死因は判明していない。人間に近い寿命(50~60歳)のゾウの若い死に、動物園関係者は「夏季開園(29日)を控えていただけに、残念」とがっかりしている。



ナナが、放飼場で起立できない状態で発見されたのは15日午後3時ごろ。緊急治療もむなしく、21日午前2時ごろ、呼吸が停止した。

ナナは1980年10月、国内業者から購入された。やせ気味で虚弱な一面があり、90、91年に起立困難が計13回あったが、その後、病気の状態は見られなかった。

マルミミゾウは、アフリカ森林部にすむ小型のゾウで生息数は不明。アフリカゾウより体格はかなり小さく、耳はアフリカゾウほど角張っていない。ナナの死で、国内でマルミミゾウを飼育しているのは山口県の徳山動物園のメス1頭だけとなった。

旭山動物園では、新たなゾウの導入は考えていないという。坂東元・副園長は「当初はアフリカゾウとして紹介していたが、(88、89年ごろ)体が小さいとの指摘を受けて看板をマルミミゾウに変えたこともあった。動物園を代表するゾウがいなくなるのは寂しい」と話している。

(2006年4月22日 読売新聞)